

平成27年度 酒田出身の人物 展示人物一覧

展示期間：平成27年1月4日～12月28日（2階常設展示室）



白崎 良弥（しらさき りょうや）

弘化三年三月八日生 ～ 明治二十四年六月十四日没

消防功労者

酒田伝馬町の豪商・越前屋の八代目として生まれる。越前国から移住してきた白崎家は、代々酒田町の公益、特に防火対策に力を注ぎ、火事の多い酒田の防火設備の充実に貢献した名家として知られる。白崎も同じく酒田消防組の設立に関わり、初代頭取となる。明治十四年七月の明治天皇巡幸の際は、酒田町巡幸奉迎総取締役の一人に任命される。池坊流華道を嗜み、御在所に花を活けたと伝えられている。また、馬術・茶道も嗜んだ。

明治二十四年、大浜での消防大演習の際に落馬し負傷、死亡した。安祥寺に眠る。また、日和山に白崎を称えた顕彰碑が建てられている。



門山周智（かどやま しゅうち）

嘉永二年三月二十五日生 ～ 明治四十三年五月七日没

医師

庄内松山藩士の六男として生まれる。長兄・周政の養子となり跡を継ぐ。明治三年に松嶺藩権少属兼四等録事、翌年に政庁横目付を勤める。同四年五月には兵部省土地図誌編輯(へんしゅう)掛となった。同七年に上京、緒方惟準(これよし・緒方洪庵の次男)に師事し、内科・眼科を学ぶ。その後松嶺に開業。大流行したコレラの予防の為、同十五年に「連合私立衛生会」が開設され、議長に就任。同年には飽海郡医となった。同十九年に医業講習所「淳華堂」を開設。町会議員も務めた。そして同二十四年、飽海郡の衛生状況・医療設備・病床者の扱いなどを記録した「飽海郡衛生誌」を刊行する。

明治二十七年・酒田大地震の際は、自宅が半壊した中で医療器具・薬品を運びだし、徹夜で被災者の治療にあたった。地震後しばらくの間はひっきりなしに被災者が訪れ、その数は百人を超えたという。

地域医療・衛生改善に尽力し、明治四十三年五月、六十二歳で逝去。松山総光寺に眠る。

写真提供：松山文化伝承館



川上瀧彌 (かわかみ たきや)

明治四年一月二十四日生 ～ 大正四年八月二十一日没

植物学者

飽海郡松嶺町（現酒田市松山地区）に生まれる。幼いころから自然に興味を抱き、標本を作っていた。明治二十一年に鶴岡の荘内中学校に入学するも中退。その後一家で北海道へ移動し、札幌農学校へ進学。在学中、阿寒(あかん)湖の球状藻に「マリモ（毬藻）」の和名を命名した。明治三十三年に卒業、翌三十四年に熊本県農学校の教諭となり、明治三十六年には台湾総督府の技師として赴任。台湾の植物を調査研究し、数十種の新種を発見、植物学会に発表した。それら川上が発見した植物には「kawak.」と学名がつけられている。

明治四十一年に台湾総督府博物館（現国立台湾博物館）初代館長に就任する。大正四年八月二十日に、現在本館となっている建物が完成したが、翌日二十一日に四十四歳の若さで急死する。これらの功績から、現在も台湾の人々に高く評価されている。

写真提供：松山文化伝承館



竹内丑松 (たけのうち うしまつ)

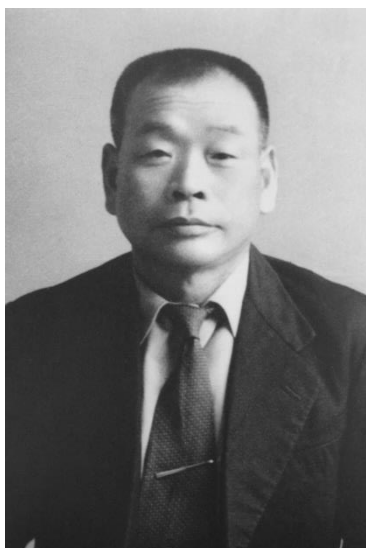
明治十年六月二十六日生 ～ 昭和二十二年三月二十四日没

素封家・政治家

酒田米屋町の素封家(そほうか)の家に生まれる。雅号は淇州(きしゅう)。青年時から書・漢詩をたしなみ、その実力は折り紙つきだった。将棋の名人である祖父・伊右衛門の手ほどきを受けていた事から、将棋の腕は八段となり、当時多くのプロ棋士が対局の為に来酒したという。また、囲碁・剣道にも通じ、自宅に道場を建てて剣道の振興に努めた。中央から高名な剣士が指導に来酒し、剣道実力者を輩出した。旧酒田商業高等学校が、剣道の名門校になったのも、竹内の影響が大きい。

二十年以上町会議員としても活動、近代酒田の歴史上に多々登場する。雑誌「木鐸(ぼくたく)」の発行にも携わり、酒田の文化発展に大きく貢献した。前述の囲碁を通じ、犬養毅・頭山満ら政界の大物とも交流があった。

昭和二十二年に七十一歳で逝去。浄福寺に眠る。



山口弘 (やまぐち ひろし)

明治二十五年五月五日生 ~ 昭和三十五年九月十二日没
和牛飼育・養蚕功労者

南平田村(現酒田市平田地区)新山(にいやま)に生まれる。山口家は代々新山大権現(新山神社)の宿坊を勤める家柄である。明治四十四年に庄内農学校(現庄内農業高等学校)を卒業、同八月に東京の蚕業講習所の助手となる。大正二年に平田に帰郷し、南平田村養蚕技術員となる。村で養蚕指導を行い、日々カイコの生育を記録した。

その後、農作物の冷害被害を予測し、畜産を村内に呼びかけ、昭和七年に南平田村有畜農業実行組合が組織した。この年、鳥取県から牛を七頭導入し、庄内で初めて和牛の飼育を開始した。和牛育成の研究を重ね、昭和二十五年に山形県初となる和牛の登録を達成した。以後畜産を庄内に根付かせる為に尽力し、「和牛の山口」と呼ばれるようになった。山形県畜産販売農業協同組合和牛部長、飽海郡畜牛畜産組合長を歴任。

昭和三十五年九月十二日に六十八歳で逝去。

写真提供：個人蔵



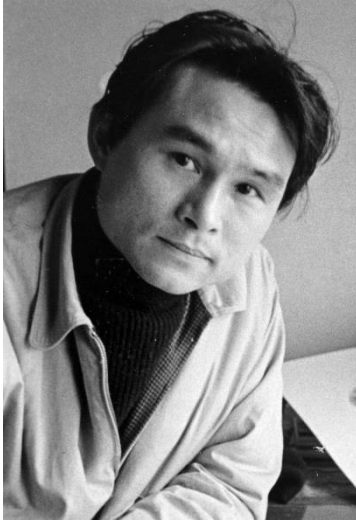
茂木善作 (もぎ ぜんさく)

明治二十六年十二月十日生 ~ 昭和四十九年十二月二十四日没
マラソンランナー・スポーツ指導員

飽海郡豊原村(現酒田市本楯地区)に生まれる。大正二年に山形県師範学校を卒業、蕨岡(わらびおか)小学校に勤務する。のち東京高等師範学校に入り、四大校駅伝競走(第一回箱根駅伝)に出場し、優勝を勝ち取る。大正九年、同校三年在学中の時に開催された第七回アントワープオリンピックで、山形県民初のオリンピック選手となる。記録は二十位であった。大正十年の第五回極東選手権競技大会(現アジア大会)では二位を記録した。また、在学中には八〇〇メートル・一五〇〇メートル・一万メートルの日本新記録(当時)を樹立している。

卒業後に旧制水戸高校の教諭を経験、満州国に渡り大学教授を務める。昭和二十四年に日本へ戻り、日本体育協会役員・山形県縦断駅伝競走審判長を務め、山形県におけるスポーツ振興に尽力した。

昭和四十九年十二月二十四日に八十一歳で逝去。常福寺に眠る。酒田市では平成二十三年まで茂木杯ハーフマラソンが計四十五回開催され、現在のシティハーフマラソンへと引き継がれている。



土井栄（どい さかえ）

大正五年一月九日生 ～ 昭和五十一年十月三十一日没

洋画家・挿絵画家

飽海郡一條村（現酒田市八幡地区）寺田に生まれる。本名は栄司（えいじ）。昭和九年に上京し、本郷絵画研究所に入所。岡田三郎助・辻永・中村研一らに師事する。菊池寛の小説で挿絵を担当し、以後文芸作品をはじめ、少年少女向け作品、雑誌表紙などを担当。著名な作品には「黒部の太陽（木本正次）」「ゼロの焦点（松本清張）」がある。昭和三十九年に主体美術協会の創立に関わり、会員として活躍する。

昭和四十年代にはたびたびヨーロッパへ旅行し、その際の油絵やスケッチが残る。都市部での個展開催は十三回に及び、多方面で活躍した。酒田市八幡地区の公共施設に絵画作品が寄贈・展示されている。

昭和五十一年に六十歳で逝去。東京・高円寺の寺に眠る。

写真提供：個人蔵